

平成 31 (2019) 年度県立高等学校入学者選抜の結果について

平成 31 年度県立高等学校入学者選抜は、全日制課程の特色選抜が 2 月 7 日木曜日及び同月 8 日金曜日、一般選抜が 3 月 6 日水曜日、また、定時制課程のフレックス特別選抜が 3 月 6 日水曜日、一般選抜が 3 月 18 日月曜日に実施された。これらの受検・合格状況は下の表に示したとおりである。

1 生徒募集定員の総枠について

平成 31 (2019) 年 3 月の県内中学校卒業見込者数 (前年比 205 人減) を考慮し、全日制課程の定員を 12,035 人 (前年比 160 人減) とした。

2 平成 31 年度入学者選抜について

(1) 特色選抜

特色選抜については、全ての全日制課程高校 59 校 119 系・科で実施された。特色選抜においては全ての高校で面接を実施しており、37 校 89 系・科では作文を、18 校 26 科では小論文を実施した。また、学校独自検査は 6 校 6 科で実施しており、同じ 6 校 6 科で学校作成問題を実施した。

(2) 傾斜配点、面接等

昭和 61 年度から一般選抜 (学力検査) の評価方法の弾力化を図り、教科内傾斜配点を実施している。実施については、各学校・学科の特色及び入学後の生徒の進路等を配慮して決めるものであり、今年度は 3 校 3 科で国数英の 3 教科により実施した。また、小山高校の数理科学科については、昨年度と同様に、数学の得点を 1.5 倍にする教科間の傾斜配点を実施した。

一般選抜 (学力検査) 受検者に対する面接は平成元年度から導入しており、今年度は 23 校 76 科で実施した。

海外帰国者・外国人等の受検に関する特別の措置については、特色選抜と同時に行う A 海外特別選抜で 24 名が合格した。

定時制課程においては、満 20 歳以上の志願者は、学力検査を行わず、作文をもってこれに代えることができる。この制度では、3 名が合格した。

以下、各教科の学力検査問題 (全日制) について、出題の方針及び結果の概要について述べる。なお、各問の正答率は全日制課程受検者 1,000 名を抽出して調査した結果であり、完全正答者についての割合である。

<表> 受検・合格状況の推移

	平成 31 (2019) 年度				平成 30 (2018) 年度				平成 29 (2017) 年度			
	全日制		定時制		全日制		定時制		全日制		定時制	
	特色選抜	一般選抜	フレックス特別	一般選抜	特色選抜	一般選抜	フレックス特別	一般選抜	特色選抜	一般選抜	フレックス特別	一般選抜
募集定員	12,035		600		12,195		640		12,435		640	
受検人員	5,215	9,973	198	253	5,473	10,205	148	232	5,925	10,590	163	258
受検倍率	1.81	1.18	1.98	0.51	1.88	1.19	1.23	0.44	2.03	1.21	1.36	0.48
合格人員	3,286	8,325	110	214	3,323	8,388	111	230	3,374	8,564	107	235
合格倍率	1.59	1.20	1.80	1.18	1.65	1.22	1.33	1.01	1.76	1.24	1.52	1.10

※ 受検倍率=受検人員÷定員, 合格倍率=合格人員÷受検人員

出題の方針

- 1 中学校学習指導要領の趣旨を踏まえ、中学校国語科の指導内容に即し、基本的な言語に関する知識・理解、適切に表現する能力、正確に理解する能力を総合的に評価できるようにした。
- 2 生徒の多様な学力の実態に応じ、言語に関する事項についての知識及び理解の程度を評価できるようにした。
- 3 生徒の学習や日常生活に関連があり、内容に偏りのない平易な文章を読んで、表現者の立場や考え方を捉えたり、あるいは作品の描写や登場人物の心情などを読み取ったりするなどして自分の考えをまとめて表現する能力を評価できるようにした。
- 4 古典については、親しみやすい内容の古典を素材にして、基本的な読む能力を評価できるようにした。
- 5 作文については、自分の意見の根拠を明確にして適切に書く能力を評価できるようにした。

結果の概要

1 は、言語に関する知識と理解度、言語感覚の確かさや言語運用能力をみるものである。言語に関する単なる知識の確認にとどまらず、言葉の意味やきまりを確認する機会を通して、言語生活の向上に役立てることを意図して出題した。

1の漢字の読みの問題は平均正答率が86.3%、2の漢字の書きの問題は平均正答率が83.7%であった。漢字の読みでは、(1)から(4)はよく読めていたが、(5)の「叡か」の読みが59.2%とやや低かった。漢字の書きでは(1)「泳ぐ」が94.9%で最も正答率が高く、最も正答率の低い(5)「複雑」が71.5%という結果であった。日常生活で使用する語彙の確実な定着を今後も期待したい。

3の表現技法に関する設問の正答率は65.4%、文法的に同じ意味・用法を問う設問の正答率は59.0%であった。表現技法や文法的に同じ意味・用法については学習を継続し、定着させることが望まれる。

2 は、江戸時代に出版された「室町殿物語」を素材として出題した。ある仙人が、病で苦しむ人々のために、八つの優れた点がある水を持って全国各地を歩き回る場面を取り上げた。歴史的仮名遣いや動作の主体を答える問題、仙人の人物像などを問う問題を出題した。

1の歴史的仮名遣いにおいては、正答率が98.2%とよく読めていた。また、4の内容に関する設問においては、42.7%という正答率であった。

主語を補いながら読み進める古文の学習の特徴を念頭に、行為や動作の主体をおさえ、話の流れを概括する学習や、登場人物の言動の内容や意味を捉える学習等の継続が重要である。また、言語文化を継承するという観点からも、古文特有の言葉に注目したり、話の面白さを味わったりするなど、多くの古典に親しむ機会をもち、現代に息づく古典の価値を理解することが大切である。

3 は、高橋博之の「都市と地方をかきまぜる『食べる通信』の奇跡」を素材として出題した。都市と地方を切り口に、農業、工業、地域経済などについて論じた文章である。

自分の言葉で答えを記述する2の部分正答を含む正答率は80.1%、4(I)の部分正答を含む正答率は76.9%であった。本文の語句を適切に用いて説明する記述問題に対しても、多くの受検者が前向きに取り組んだことがわかる。記述問題においては、本文の語句を適切に用いて説明する力を身に付けるとともに、書くことに対する前向きな姿勢が必要となる。

説明的な文章を読解する上では、主張、例示、具体例など、文の構成を意識しながら読み進めたり、根拠を抜き出したりするなどして、筆者が本文全体を通して伝えようとしていることを正確に読み取る力を養っていく必要がある。その際には、読み取った内容を自分の言葉でまとめたり、論理の展開について考えたりする学習を取り入れることも効果的である。

4 は、竹西寛子の「虚無僧」を素材として出題した。主人公の少年「ひさし」と母親をめぐるそれぞれの思いを描いた場面を取り上げた。文章は受検者にとって読みやすいものであったと思われる。

文学的文章の読解では、主観によらず、場面設定を踏まえ、それぞれの人物の心情や言動を押さえながら読み進めていくことが要求される。

選択問題については、2の本文全体の構成を問う問題の正答率が57.1%とやや低かった。また、5の登場人物の変化に関する部分を抜き出す問題では、正答率が46.2%であった。条件に照らし合わせながら適する部分を見つける力を身に付けることが求められる。

文学的文章では、グループ活動等において、各自の読みの交流を図ることも大切であるが、解釈の妥当性を検証し合うような学習が重要である。判断の根拠を探して話し合ったり、表現や描写をもとに登場人物の言動の意味を考えさせたりする学習活動によって、確かな読みの育成につなげていきたい。

5 の作文は、会話とグラフを参考にして、「意見を伝える」という設定のもと、条件に沿って内容を適切に書く能力を評価するものである。

会話とグラフから読み取った内容と、テーマに対する適切な具体例、自分の考えと理由を関連づけて適切に表現することを求めている。普段の生活の中において、身の回りの出来事に対する意識を高め、考える習慣を身に付けるとともに、読み手の立場に立って自分の意見を表現する訓練をしておきたい。

また、授業の中では、「話すこと・聞くこと」「読むこと」との関連において、根拠や理由の整理の仕方、効果的な表現の使用などについて確認し、書くことの学習の充実を図ることで、自ら考え、表現する力の向上を目指したい。

(全日制課程受検者から1,000名を抽出して集計)

問		題	正答率	問		題	正答率	問		題	正答率
1	1	(1)	93.3 %	2	1	98.2 % (98.4)	4	1	84.6 %		
		(2)	90.9 %		2	89.7 %		2	57.1 %		
		(3)	93.0 %		3	68.7 % (28.5)		3	83.0 %		
		(4)	95.4 %		4	42.7 % (64.6)		4	17.3 % (76.2)		
		(5)	59.2 %		5	85.0 %		5	46.2 %		
	2	(1)	94.9 %	3	1	71.5 %		5	6	79.6 %	
		(2)	81.5 %		2	42.4 % (80.1)	(96.8 %)				
		(3)	93.1 %		3	63.4 %					
		(4)	77.3 %		4 (I)	15.1 % (76.9)					
		(5)	71.5 %		4 (II)	61.1 %					
	3	(1)	91.6 %	5	55.4 %						
		(2)	65.4 %								
		(3)	86.3 %								
		(4)	59.0 %								
		(5)	93.2 %								

※ () 内は部分正答も含めた割合

社 会

出題の方針

- 1 中学校学習指導要領の趣旨を踏まえて、地理・歴史・公民の各分野から相互の関連にも留意して出題した。
- 2 社会科のまとめとして **7** を出題し、その中で各分野の学習成果を活用する力をみようとした。
- 3 基礎的・基本的内容を各分野から取り上げて出題し、社会的事象に関する基礎的知識についての理解の程度をみようとした。
- 4 地図・統計・写真・略年表等から必要な情報を適切に読み取り、表現する力をみようとした。
- 5 各分野において論述問題を出題し、社会的事象を多面的・多角的に考察し、適切に表現する力をみようとした。

出題分野・解答形式別の問題数・配点の内訳

	地理的分野	歴史的分野	公民的分野	総合	合計
選 択	7(14)	8(16)	6(12)	2(4)	23(46)
記 述	4(8)	5(10)	5(10)	1(2)	15(30)
論 述	2(8)	2(8)	1(4)	1(4)	6(24)
合 計	13(30)	15(34)	12(26)	4(10)	44(100)

() 内の数字は配点

結果の概要

1 は、地理・歴史・公民の各分野についての基礎的・基本的な知識に関する理解の程度をみるもので、全体的に正答率は高かった。

2 は、地理的分野のうち、世界の様々な地域に関する出題である。今回はアジア州の特色について、人々の伝統的な生活や文化及び自然環境などに着目して、資料をもとに考察し表現する力をみようとした。**4** は、アジア諸国の輸出品や GDP などの統計資料をもとに各国の産業の特色を適切にとらえる力をみるもので、正答率は 35.9%であった。**5** の論述問題は、中国の多様な自然環境を生かした農業について、複数の資料を活用して考察し、適切に表現しているかをみるもので、正答率は 46.3%であった。

3 は、地理的分野のうち、日本の様々な地域に関する出題である。今回は九州地方の地域的特色を、様々な資料を活用して考察し表現する力をみようとした。**3** は、日本のエネルギー開発の地域的特色について、統計資料をもとに思考し判断する力をみるもので、正答率は 32.3%であった。**5** の論述問題は、宮崎県の温暖な気候を生かしたキュウリ栽培について、キュウリの取扱量と平均価格などの統計

資料を読み取り、適切に表現しているかをみるもので、正答率は 31.0%であった。

地図や統計資料等を活用して、地理的事象を説明したり、意見を交換したりする学習活動を一層重視して、思考力等の育成を図っていく必要がある。

4 は、歴史的分野のうち、古代から近代までを扱い、社会や文化の発展及び人々の生活向上に尽くした女性たちを取り上げ、各人物の役割や生き方などについて、時代背景と関連付けて考察する力をみようとした。**4** の論述問題は、平清盛と藤原道長が行った政治の共通点について、資料をもとに考察し、平安時代の政治の特色を踏まえ適切に表現しているかをみるもので、正答率は 33.2%であった。

5 は、2020 年に日本でオリンピック・パラリンピックが開催されることを踏まえて、オリンピックとの関わりから歴史的事象をとらえ、日本や国際社会の動きを理解する力をみようとした。**4** は、日本が戦後、独立を回復し国際社会へ復帰したことに関する理解の程度をみるもので、正答率は 28.4%であった。**5** の論述問題は、冷戦に関する知識を踏まえ資料を考察し、米ソ両陣営の対立が国際社会に与えた影響について適切に表現しているかをみるもので、正答率は 10.3%であった。

歴史的な諸事象を結ぶ問いを設定し、各時代の特色と歴史の大きな流れを、多面的・多角的に考察し、表現する学習活動を展開して、思考力等の育成を図っていく必要がある。

6 は、公民的分野からの出題である。**1** は、主に経済に関して出題し、(2)は、税制度に関する理解の程度をみた。正答率は 51.5%であった。統計資料などを活用して租税の特徴に触れ、租税の仕組みや意義などについて理解と関心を深めることが大切である。**2** は、主に政治に関して出題し、(6)の論述問題は、導入 10 年目を迎える裁判員制度のねらいについて、司法に関する知識を踏まえ、資料を読み取り、適切に表現しているかをみるもので、正答率は 10.0%であった。裁判や司法について、抽象的な理解のみにならないように裁判官、検察官、弁護士などの具体的な働きに触れながら、国民の司法参加の意義を理解できるようにすることが大切である。

7 は、地理・歴史・公民の各分野の学習成果を活用し、持続可能な社会の形成という観点から、多面的・多角的に考察、構想し、表現する力をみようとした。**2** は、歴史の大きな流れをとらえ、出来事と時代区分との関わりにおいて理解しているかをみるもので、正答率は 33.5%だった。**4** の論述問題は、課題を探究し、その解決に向けて考察、構想した結果を説明しているかをみるもので、正答率は、X-80.0%、Y-87.9%であった。

<平 31(2019)> 社会学力検査結果集計表

(全日制課程受検者から1,000名を抽出して集計)

問題		正答率	問題		正答率	問題		正答率	
1	1	(1)	90.1 %	3	3	32.3 %	1	(1)	62.9 %
		(2)	97.0 %		4	73.5 %		(2)	51.5 %
		(3)	74.0 %		5	31.0 % (56.5)		(3)	92.6 %
		(4)	62.8 %	1	84.6 %	(4)		71.3 %	
	2	(1)	77.8 %	4	2	66.2 %	2	(1)	60.1 %
		(2)	80.5 %		3	57.1 %		(2)	52.6 % (53.5)
		(3)	55.8 %		4	33.2 % (72.0)		(3)	47.4 %
		(4)	60.4 %		5	75.3 %		(4)	77.0 %
2	1	54.6 %	6		42.5 %	6		(5)	73.4 %
	2	79.8 %	7		57.5 %			(6)	10.0 % (53.5)
	3	77.0 %	5	1	14.8 %		7	1	66.6 %
	4	35.9 %		2	47.0 %	2		33.5 %	
	5	46.3 % (92.1)		3	64.5 %	3		64.2 %	
3	1	85.1 %		4	28.4 %	4	X	80.0 % (93.4)	
	2	63.8 %		5	10.3 % (47.5)		Y	87.9 % (91.1)	

※ () 内は部分正答も含めた割合

数 学

出題の方針

- 1 中学校学習指導要領の趣旨を踏まえ、中学校数学科の指導内容に即し、数学の基礎的・基本的な知識・技能及び数学的な思考力・判断力・表現力を総合的に評価できるよう、数と式、図形、関数、資料の活用の4領域から出題した。
- 2 数と式の領域では、数の四則計算や文字式、方程式の問題を通して、数学全般に関わる基礎的な技能の習得状況を評価し、また、問題解決のための立式、計算及び説明を記述させることにより、基礎的・基本的な知識・技能、数学的な思考力・判断力を評価できるようにした。
- 3 図形の領域では、図形の計量問題や基本的性質に関する問題及び証明問題を通して、基礎的な概念や性質を用いて論理的に考察し表現する能力を評価できるようにした。
- 4 関数の領域では、関数の基礎的・基本的な問題を通して、関数的な見方や考え方を評価できるようにした。
- 5 資料の活用の領域では、代表値や確率に関する基礎的・基本的な問題を通して、統計的な見方や考え方や確率的な見方や考え方を評価できるようにした。
- 6 数と式、図形、関数、資料の活用のうち、いくつかの領域からなる融合問題を通して、事象の中に潜む関係や法則を数理的に考察し、数学的な思考力・判断力・表現力を用いて、問題を解決する能力を評価できるようにした。

結果の概要

1 は、各領域における基礎的・基本的な知識及び技能をみる問題であり、平均正答率は76.1%であった(昨年度は81.0%)。良好な結果であり、これからも基礎・基本の定着を図ってほしい。ただし、「5 平方根」、「8 相似な図形の面積」、「13 適切な関数の選択」は60%を下回った。いずれも基本的な内容であるだけに、確実に理解してもらいたい。

2 は、三つの領域(図形、数と式、関数)における知識及び技能をみる問題である。**1**は作図問題、**2**は文字式を用いた証明、**3**は2乗に比例する関数についての問題であり、正答率は、**1**が56.0%、**2**(1)が73.9%、(2)が48.3%、**3**が28.3%であった。作図の問題では、与えられた条件から作図すべき図形を判断し、的確に作図する力が求められる。また、**3**の問題は、放物線と関数と直

線の交点の座標から直線の傾きを用いて比例定数を求める問題である。いずれも基本的な内容であるだけに、着実の定着が望まれる。

3 は、**1**は思考過程を論述させることを通して、数学的に考察し表現する能力をみる論述式問題であり、正答率は34.2(54.6)%(()内は部分正答も含めた割合)であった。また、**2**は代表値を正しく理解しているかということや、代表値を用いて正しく事象を説明できるかを問う問題であった。正答率は、(1)が43.8%、(2)が15.4(46.4)%であった。

自分の考えを分かりやすく説明したり、互いに自分の考えを伝え合ったりする活動などをとおして、数学的な思考力・表現力を高めてほしい。

4 は、図形についての基本的な証明や計量問題を通して、図形の領域における思考力・判断力・表現力をみる問題である。**1**は、対応する二組の辺の比とその間の角がそれぞれ等しいことを用いて三角形の相似を証明する論述式問題であり、正答率は21.7(76.2)%であった。根拠を明らかにしながら論理的に考察する力や、考えを的確に表現する力の定着を心掛けてほしい。**2**は、球がちょうど入る円柱に関する問題であり、(1)が条件から円柱の高さを読み取り円柱の体積を求める問題、(2)が大きさの異なる2つの球が入るときの円柱の高さを求める問題である。正答率は(1)が51.8%、(2)が2.9%であった。問題場面を的確に把握し、中学校で学んだ図形の学習内容と結びつけ、考察の方法を自ら選択して問題解決を図るような学習活動の充実が望まれる。

5 は、速さと距離についての考察を通して、関数領域における思考力・判断力・表現力をみる問題である。**1**は1次関数の値の問題であり、正答率は83.2%であった。**2**は1次関数の式に関する論述問題であり、正答率は36.5(46.3)%であった。場面を正しく理解し、一次関数の式を求める基本的な問題である。**3**はグラフを活用する力を見る問題である。(1)は問題条件をグラフに正しく表現できるかという問題であり、正答率は52.6(56.8)%であった。また、(2)は2人が出会う時間を求める問題であり、グラフを活用して考察することが鍵となる。正答率は18.6%であった。

6 は、長方形に並べた円盤に書かれた数についての問題を通して、複数の領域における思考力・判断力・表現力を見る問題であり、正答率は、**1**が69.8%、**2**が43.9%、**3**が4.9(16.7)%、**4**が0.2(1.0)%であった。普段の学習において、場面を的確に捉え、試行錯誤しながら粘り強く問題解決に取り組むことを心掛けてほしい。

<平 31(2019)> 数 学 学 力 検 査 結 果 集 計 表
 (全日制課程受検者から1,000名を抽出して集計)

問 題	正 答 率
1	98.2 %
2	84.3 %
3	86.4 %
4	89.9 %
5	59.7 %
6	75.8 %
7	80.7 %
8	55.2 %
9	81.2 %
10	85.6 %
11	80.3 %
12	70.4 %
13	52.8 %
14	64.9 %

1

問 題	正 答 率
1	56.0 %
2	(1) 73.9 % (74.6 %)
2	(2) 48.3 % (49.7 %)
3	28.3 %
1	34.2 % (54.6 %)
2	(1) 43.8 %
2	(2) 15.4 % (46.4 %)
1	21.7 % (76.2 %)
2	(1) 51.8 %
2	(2) 2.9 %
1	83.2 %
2	36.5 % (46.3 %)
3	(1) 52.6 % (56.8 %)
3	(2) 18.6 %

2

3

4

5

問 題	正 答 率
1	69.8 %
2	43.9 %
3	4.9 % (16.7 %)
4	0.2 % (1.0%)

6

※ () 内は部分正答も含めた割合

出題の方針

- 1 中学校学習指導要領の趣旨を踏まえ、中学校理科の指導内容に即し、物理的領域、化学的領域、生物的領域、地学的領域の4領域の学習内容から偏りなく出題した。
- 2 身近な現象や日常生活と関わりの深い内容を取り入れ、自然の事物・現象についての関心と理解、基礎的・基本的な知識をみるようにした。
- 3 観察・実験についての基礎的な知識・技能をみるようにした。
- 4 観察・実験を通して、自然の事物・現象を科学的に調べ、論理的に思考する力をみるようにした。
- 5 自然の事物・現象を科学的に調べた結果を、的確に表現する力をみるようにした。

結果の概要

1 は、小問集合であり、幅広い分野からの出題である。自然の事物・現象、観察・実験に関する基礎的な知識・理解及び関心をみるようにした。選択問題の正答率の平均が86.3%、記述問題で73.9%であった。正答率の高かった問題は、選択問題では惑星の大きさの93.9%、記述問題では太陽の南中高度の84.6%であった。

2 は、有機物の流れや食物連鎖から生態系について考察する力をみる問題である。学習により得た知識をもとに、実際に実験できない現象を予測する力を身に付ける必要がある。2の分解者を選択する問題は、正答率が36.0%と低かった。

3 は、混合物の分離に関する実験を通して、蒸留の理解や結果を考察する力をみる問題である。実験で得られる様々な結果を結びつけ、解答を導き出す必要がある。実験操作やグラフから沸騰の始まりを考える問題の正答率は、いずれも60%を超え、蒸留に関しては学習による知識の定着が図られていた。

4 は、簡単なモーターの実験等を通して、回路を流れる電流やモーターの回転の様子、電磁誘導などについて考察する力をみる問題である。4の回転する棒磁石によって起こる誘導電流については、一般的な交流電流と異なる波形であったためか、正答率が16.1%と低かった。

5 は、空気の流れに関する実験を通して、大陸と海洋のあたたまりやすさの違いと季節風の向きを考察する力をみる問題である。日本列島が大陸と海洋の狭間に存在することと、風がなぜ吹くのかという、気象学における要点をおさえた上で思考する必要がある。2の空気の流れについては、正答率が54.1%であった。

6 は、中和に関する実験を通して、実験器具の使い方や中和反応の様子を考察する力をみる問題である。過去の問題における、正答率の低い化学式については、硫酸バリウム、水ともに50%程度であり、比較的良好であった。4の中和反応の量的関係をグラフで示す問いは、正答率が22.5%と低かった。中和の完了点を考察する力が求められる。

7 は、エネルギーに関する実験を通して、物体がもつエネルギーについて考察する力をみる問題である。力学的エネルギーが保存されるという知識を、実験結果の考察に生かす必要がある。3の力学的エネルギーの保存についての問いは、正答率が24.5%と低かった。

8 は、地震に関するデータを読み解くことで、震央や震源の深さなどについて考察する力をみる問題である。地震におけるマグニチュードと震度の違いを理解することはもちろんのこと、震源には深さがあるということに着目して思考することが大切である。2の震源の深さと揺れの問いは、記述ということもあるが正答率が38.8%であった。防災の観点からも理解を深めておいてほしい分野である。

9 は、オオカナダモを用いた実験を通して、光合成や呼吸、地球全体の二酸化炭素濃度の季節変化について科学的に考察する力をみる問題である。実験によって何が分かるのか理解することは、仮説の検証方法を考える力につながり大切なことである。3の仮説に正対する実験の立案の問題の正答率は、71.7%と高く、日頃の実験や観察の成果が出ていた。複数のデータをもとに二酸化炭素濃度の季節変化を考察する4の正答率は、14.2%と低かった。

理科の学習は、用語を覚えることはもちろんであるが、実験・観察で得られた結果について、計算をしたり、グラフを書いて、仮説を検証したりすることが大切である。また、考察したことを自分の言葉で表現する学習も重ねてほしい。

<平31(2019)> 理 科 学 力 検 査 結 果 集 計 表

(全日制課程受検者から1,000名を抽出して集計)

問 題		正答率	問 題		正答率	問 題		正答率	
1	1	93.9 %	4	3	2	80.0 % (80.0)	8	1	53.5 %
	2	85.9 %			図3	56.9 % (56.9)		2	38.3 % (44.7)
	3	80.0 %		図4	76.5 % (76.6)	3		震央	24.0 %
	4	85.2 %		4	16.1 %			深さ	22.0 % (22.0)
	5	64.5 % (70.4)	5	1	32.5 %	9	1	69.7 %	
	6	64.9 % (68.5)		2	54.1 %		2	①	78.8 % (78.8)
	7	84.6 % (85.8)		3	26.3 % (42.0)			②	75.2 % (75.3)
	8	81.6 % (81.6)		4	36.7 %			③	74.0 % (74.0)
2	1	49.7 % (53.3)	6	1	84.5 % (85.4)	3	3	71.7 %	
	2	36.0 %		2	71.5 % (72.0)		4	14.2 % (48.0)	
	3	69.9 % (69.9)		3	①	49.2 % (50.9)	7	1	54.0 % (54.2)
3	1	66.5 % (69.6)			②	63.2 % (63.5)		2	72.1 %
	2	65.0 %	4	22.5 % (25.3)	3	24.5 %			
	3	B	69.1 %	7	1	54.0 % (54.2)			
D		23.3 %	2		72.1 %				
4	1	35.6 %	3		24.5 %				

※ () 内は部分正答も含めた割合

出題の方針

- 1 問題の内容が中学校学習指導要領の趣旨に沿うものとし、聞く、話す、読む、書くことの言語活動の4領域にわたって出題するように努めた。
- 2 中学校学習指導要領に示されている基礎的・基本的な内容について、多く出題するようにした。
- 3 聞く力については、まとまりのある英語を聞いて概要や要点を適切に聞き取る、基礎的な力を主にみるようにした。
- 4 表現する力については、与えられた場面やテーマに沿って英語で正しく伝える力をみるようにした。
- 5 読む力については、比較的長い文を読み、書かれていることの概要や要点を文脈に沿って読み取る力をみるようにした。

結果の概要

1 は、身近な事柄を素材にして、音声によるコミュニケーション活動を扱った聞き方の問題で、3問構成とした。問題全体平均正答率は、51.2%であった。**1**は短い対話を聞いて適切に応答する力をみる問題である。3問の平均正答率は46.3%であった。**2**は対話を聞いて、内容を理解する力をみる問題であり、小問ごとに設問2つに答える形式である。正答率の平均は65.3%であり、各小問の平均正答率は(1)が68.7%、(2)が61.9%であった。**3**はまとまった長さの英文を聞いて、その要点を捉え、英語で答える力をみる問題である。4問の平均正答率は40.9%であった。コミュニケーション能力を育成するためには、英語を聞いて必要とされる情報を正確に把握することのできる「聞く力」を育成することが大切である。

2 は、基礎的・基本的な言語材料についての理解度をみる問題で、基礎的・基本的な言語材料を活用した将来の夢に関するスピーチの原稿を素材にしている。6問の平均正答率は71.4%である。**2**は語句を並べかえ、語と語のつながりなどに注意して正しく英語で表現する力をみるための問題である。3問の平均正答率は70.8%である。

3 は、対話の流れを把握しながら要点を捉える力をみる問題で、異文化理解をテーマに出題してい

る。今年度はペルーの打楽器「カホン」を話題として扱った対話文を出題した。4問の平均正答率は43.9%であった。**1**、**4**の文脈から概要を捉え下線部の内容を解答する問題は、それぞれの正答率は56.0%、35.2%であった。**3**の文脈から判断し英文を並べ替える問題は、正答率が37.9%であった。

4 は、書くことによって表現する力をみる問題である。言語の実際の使用場面により近い題材及び問題設定となるようにしている。**1**は日本語のメモをもとに趣味について書く際に用いる英語を答える問題である。小問2問の完全正答率の平均は22.3%であり、中間点を含めると43.5%であった。**2**の(1)は絵をヒントに文脈から判断して、適切な英語で表現する力をみる問題である。小問2問の完全正答率の平均は32.9%であり、中間点を含めると54.4%であった。具体的な場面や状況を把握し、適切な表現を活用して書くことが求められる。**2**の(2)は、対話に出てくる質問に対する答えを英語で表現する力をみる問題である。今年度は、「弁当と給食のどちらが好きか」という質問に対して自分の立場を決め、その理由を明確にして英語で表現する出題とした。完全正答率は12.0%であったが、中間点を含めると87.7%であった。自分の気持ちや考えが相手に伝わるように英語で書く力を育成するためには、言語材料についての理解の定着を確実に図ることと、英文の構成力・表現力の育成を目指して、日頃から英語で表現しようとする取組を積み重ねることが重要である。

5 は、物語文を素材として用いる読解問題で、文脈に沿って内容を適切に理解する力、概要や要点を捉える力をみるものである。今年度は、長距離走大会をきっかけに姉妹の絆が強まる様子を題材とした。4問の平均正答率は35.6%であった。**2**は、本文から登場人物の心情を捉え、発言を英語で表現する出題とした。正答率は中間点を含めて24.4%であった。

6 は、説明文を素材として用いる読解問題で、今年度はクモに関する説明文を出題した。4問の平均正答率は48.4%で、中間点を含めると57.5%であった。

英文の内容を説明したり、その要点を捉え概要をまとめる力を身に付けたりするためには、日常的にまとまりのある英文の読解に取り組むことも大切である。

<平31(2019)> 英語学力検査結果集計表

(全日制課程受検者から1,000名を抽出して集計)

問		題	正答率	問		題	正答率	問		題	正答率
1	1	(1)	61.4%	2	1	(1)	87.3%	4	1	(1)	15.8% (40.4%)
		(2)	38.7%			(2)	76.0%			(2)	28.7% (46.5%)
		(3)	38.7%			(3)	71.5%		2	(1)	①
	(1)	①	51.2%			(4)	40.5%	②			24.7% (46.6%)
		②	86.2%			(5)	91.5%	(2)	12.0% (87.7%)		
	(2)	①	66.2%			(6)	61.4%	5	1	42.6% (67.4%)	
		②	57.5%	(1)	88.2%	2	18.0% (24.4%)				
	3	(1)	62.6% (70.2%)	(2)	52.3%	3	11.3% (36.1%)				
		(2)	44.8% (54.1%)	(3)	72.0%	4	53.0%				
		(3)	26.6% (29.8%)	3	1	56.0% (72.6%)	1	72.2%			
		(4)	29.5% (33.0%)		2	46.4%	2	31.3% (54.1%)			
	6	3	3		37.9%	6	3	4	4	49.3%	
4			35.2% (69.3%)								

※ () 内は部分正答も含めた割合